

(ストーリー/鬼を討伐に来た15歳の少女。町中で発生している鬼の被害を絶つべく任務に向かう。)

(設定1)(鬼を探して辺りを見渡している警戒を募らせ落ち着いている。)

「情報によればこの辺に鬼がいるはずなのだけれど」

「失踪者20名、その内のほとんどが15歳...私と同じ年の女性が被害にあっている」

「急いで見つけて倒さないと」

「それにしても月明かりがあるとは言えこの辺はこんなに暗くなるのね。足元には気を付けないと...」

(設定2)(突如として足元に現れた沼に沈んで

いく。最初こそ驚いたが、鬼の首を斬ろうと躍起になる。)

ドブンッ

「ん？どぶんっ？何の音.....キャア！？」

「何よこれ！？身体が沈んで...！」

「ふっ！...んんんっ！！だ、ダメ抜けない！」

「これって血鬼術(けっきじゅつ)！？まさかこれが鬼の能力！」

「うっ！何かに引っ張られて...！足元の沼に誰か...って鬼！！しかも3匹も！」

「くっ！こいつら身体にしがみついて私を引きずり込もうと.....っ！このっ！！」

「首さえ落とせばお前らなんか！.....あっ！  
くうっ！」

「しまった！刀がっ！これじゃ鬼の首を斬れない！このままじゃ...し、沈むッ！」

「このっ！このお！離せ！離せよっ！」

(設定3)(刀を失い胸まで沈んだ少女はどんどん絶望していく。気持ちは焦り、死んでしまうという恐怖に屈して命乞いをしてしまう)

「い、いやぁ！もっと沈んでっ！うう！胸まで沈んで...苦しい！」

「はぁ！はぁ！やだっ...喰われたくない！お願いっ！離して！？」

「私まだ死にたくない！も、もう鬼を倒すのは辞めるから！お願い...っ！喰わないで！！」

「はぁ...！はぁ...！いやぁ...！んぷっ！ん  
んっ！ぶはぁ！はぁ！はぁ！口が...息  
が.....！」

「はぁ！はぁ！ 誰かつ！助けて...！誰でも  
いいからっ！...ひっ！顎に沼が.....あっ、ああ  
.....沈む.....全部沈んじゃう！！」

「嫌だ(や)っ！嫌だ嫌だ嫌だ嫌だぁ！！こん  
な最後いやぁ！！ごめんなさい！ごめんなさ  
い！殺しません！殺しませんからぁ！！」

「沼に沈めないでえ！...あぶっ！！ん  
ぶっ！！んぶうう！ぶはぁ！！はぁー！  
はぁー！」

(設定4)(命乞いの叫びもむなしく口を大きく  
開けたまま沼に沈んでしまう。沼の中で息を  
吐きまくり、苦しさに悶えている。い  
やああああ！！の後の言葉になっている所は

心の声です。)

「いやあああああ！！あがっ！あぼぼぼ  
ぼっ！！」

「がぼぼぼぼっ！！ごほっ！ごぼっ！ん  
ぐっ！んん！！んぶっ！！ううっ！」

「苦しい...息を...吸わせて！」

「んんっ！んぶうう！！うっ！う.....んんっ  
...」

「い.....意識が.....いやっ...いやあ...」

「あっ.....くっ.....オ...ア.....が.....」